

## 二十、若杉山頂の茶筌髪ちやせんがみ

若杉山頂の太祖宮の境内に、大きな白塗りの神功皇后じんこうこうごうの像が建っています。これはたぶん、神功皇后が朝鮮半島の新羅しんらに出兵する時、太祖宮にも戦勝祈願のために登ってきたという伝説にちなんで建てられたものでしょうが、その頭はオカッパの上に鬻まげをつけたような、したがって茶道の茶筌ちやせんに似た、いわゆる茶筌髪ちやせんがみをしています。これは昔から伝わった神功皇后の画像にのっとったものですが、これについて、江戸の川柳かわらう子が一句ひねりました。

茶筌髪三韓さんかんまでもかきまわし

これは、茶筌ちやせんで茶をかきまわすという意味に重ねて、神功皇后が三韓さんかん(朝鮮半島)まで荒らし回ったという意味をふくんでいます。これだけならたいした川柳とはいえませんが、じつはもうひとつの意味があるのです。



江戸時代には、夫をなくした女性、つまり後家さんは、髪を短く切って茶筌髪ちやせんがみに結って、夫の後生をとむらうのがならわしでした。しかしその夫というのが横暴な亭主だった場合には、後家さんはいはればれとした解放感にみたされて、陽気になるのも人情です。ですから英語にもメリーウイドウという言葉があつて、彼女はやりりのワルツなどを踊りまくるわけです。それがワルツくらいでなく、陽気と元気のあまりに、とかく近所さんべんに騒動をまき起こしてまわるようになると、迷惑した近所の人達は、ついはやかないではいられません。

「あの調子だと、ほっとけば国の外まで荒らしまわりやせんかい……」

しかし、そうばやきながらも一面では、永い忍従の生活から解放された女性のエネルギーの輝きを、まぶしそうに見るわけです。

若杉山頂の茶筌髪ちやせんがみは、そんなわけで、ただの伝説にすぎないのに永く外国侵略のシンボルにされた神功皇后の記念像として見るよりも、とかく虐げられることの多かった昔の女性の解放のシンボルとして仰ぐべきではないでしょうか。